

# 石井としひろの「館山市政かわら版」

敏 宏

館山市議会議員

## 財政と民主主義の妥協点



### 1、館山市の財政の厳しさ

#### ①インフレによる財政悪化

2022年2月にウクライナ戦争が始まったことにより、ガソリン・小麦などの物価高騰が現在も続いています。そして、戦争の終わりも見えません。ベトナムやアフガンの戦争も15年くらい続きました。

また、建設が特に顕著ですが、人手不足のインフレも加わったことにより、インフレ時代の終わりは見通せません。200億円の決算でも、2%のインフレなら4億円の支出が増えます。翌年も2%のインフレが続くなら、約8億円の支出増になります。

一方、税収も増えるのではないかと、都市部はともかく、地方ではそうではありません。これは好景気に伴い需要が増えてのインフレ（日本でも1990年頃までのダイヤモンド・プル・インフレ）ではなく、海外物価や人手不足というコスト増加のインフレ（コスト・プッシュ・インフレ＝スタグフレーション＝物価上昇に賃金上昇が追い付かない悪性インフレ）なので、地方ではあまり税収が増えないのです。

#### ②国の地方財政制度はデフレ時代のまま

とはいえ、インフレに伴い少々の税収増があっても、その75%分の国からの地方交付税が減ります。1億円の増収があっても、75%の地方交付税が減るので、実質的な増収は2500万円止まりになります。

つまり、インフレだと支出ばかりが激増するのに、収入がなかなか増えないのです。全国的に地方財政の悪化が見られますが、館山市も相当厳しい状況です。

全国の地方自治体が苦しいのですから、本来なら国が地方交付税や補助金を増やすべきなのですが、対応できていません。20年以上のデフレに適応した地方財政制度になってしまっているのだと思います。

#### ③インフレには使用料・手数料の値上げだが

物価上昇なので、市民負担も増やさないと、市の財政は持ちません。物価上昇の観点も踏まえて、上水道・下水道・国民健康保険税・公民館などの料金も上げる改訂をしてきました。まだ、負担増をお願いすべきものもあるかも知れませんが、税率に関しては国が決めているものも多く、市として変更できないものもあります。ですから、色々と値上げしても、財政悪化を乗り切るのが難しいのです。

#### ④長期的には公共施設の再編が重要

これから人口減少の速度が増していくので、公共施設の再編が重要になります。小中学校に関しては、だいた

い再編の方向性をつけたので

現在、地区公民館の再編計画が議論になっています。老朽化している公民館は、隣の公民館と統合し、小中学校の空き校舎に移すなどの検討が必要です。

### 2、小学校の再編と民主主義

#### ①小中学校の再編

学校再編には2つの大きな意味があると思います。1つはクラス人数の確保。少ない人数だと、対人コミュニケーションの機会が少なくなるので、一定の人数を確保したいところなので、そのために統合するという意義です。2つ目は、市全体の財政事情であり、全ての学校施設を残すのは現実的に困難である点です。

中学校は期間をかけて1つに集約していき、小学校は3～4校に集約していく方向に決まりました。

#### ②房南小と神余小の再編協議の困難さ

小学校に関しては、市内の小規模校の多くの保護者は、統合して人数の多い学校で子どもが学ぶことを希望しました。一方、房南小は、地元の小規模校を望む声と、もっと大人数の学校に行きたいという声に分かれました。神余小は、そのまま小規模校で続けたいという意見がほとんどでした。

教育委員会の考えは、房南と神余を合わせて、1つの小規模校として残し、大人数の学校を希望する子は、その選択も認めるというものです（逆に、市内のどこに住んでいても、希望すれば小規模校も選択できる）。そして、小規模校の場所は人数の多い房南とするものでした。

#### ③神余小学校区は、そのまま神余での存続を望む

しかし、神余小学校区では、そのまま神余での存続を望む声が圧倒的でした。理由は、神余小での少人数教育の満足度が非常に高かったことがあると思います。

あと、これまで神余小学校は中学生になれば旧二中に通うという歴史があり、房南中に通ってきた房南小学校の子どもや保護者との縁が少なく、なんとなく文化圏が違うイメージもあったかも知れません。

#### ④少人数教育には、主体性を生む効果がある

少人数教育については、2011年ですが、廃校になる前の富崎小学校の授業参観を見学させてもらったことがあります。全校で10人強であり、2学年一緒の複式学級でした。地域の方は誰でも、授業を見に来たり、手伝ったりしていました。子どもたちも仲良く、先生との

距離が近く、地域の大人も参加していて、とても良い雰囲気でした。ですから、私もなんとなく、小規模校の良さはわかります。

また、関西の小規模校を視察したこともあります。人数が少ないクラスだと、一人一人の子どもの発言機会が増えます。大人数だと授業を聴いているだけになりがちですが、少人数だと、自分で考えて、積極的に発言するようになります。つまり、ヨーロッパのような「個別指導」「アクティブ・ラーニング」に近い形態になっているのです。ある意味、本来あるべき教育の姿が、小規模校にはあるのです。

### ⑤ 神余地区と市の合意

教育は一定規模の人数があるべきとする市と、そのまま存続を望む神余地区はなかなか合意に至りませんでした。現在、全校で20人弱の児童を、2027年5月までに36人以上にするなどを存続条件に合意に至りました。条件を満たさなければ、神余は閉校となり、房南校舎で一緒になります。

私は合意に至らなければ、個人的には学校再編計画には反対するつもりでいました。ただ、どうすればいいかという具体的対案は持っていませんでした。反対したとしても、あるべき解決策が思いつかなかったのです。

合意の内容については、36人以上という存続条件も厳しく、色々な考えがあると思います。ただ、地元と市が合意できて良かったと思いますし、合意を尊重します。

市全体として小学校再編には2年以上の期間を要しましたが、地域住民と市の民主的な対話ができたとと思います。民主主義はベストな解を導けるとは限りませんし、妥協の産物ですが、お互いが譲り合って、少しでもベターな道を模索するものだと思います。

## 3. 事業仕分けという行財政改革の問題

### ① 事業仕分けには全国的に賛否両論がある

館山市において2年連続で、行財政改革のために事業仕分けを行いまして、私も以前は肯定的に見ていましたが、やはり問題があると思います。

もともとは、民主党政権が2009年に行ったのが有名でして、削減ありきの「コストカット劇場」になってしまいました。当時に比べれば、改善もされましたが、やはり本質はコストカットのショーだと思います。

### ② 担当課の職員の準備不足だとカットされる

コストカットありきではないかと、その反論のために準備万端で臨んだ課と、そうでないところには露骨に差が出たと思います。建前としては、コストカットありきではないとしていますが、結局は経費削減のためにやっけていて、事業仕分けの対象に選ばれた時点で、うまく乗り切らないと削減される宿命なのです。

### ③ 事業仕分けの対象をフラックボックスで選ぶ

事業仕分けの選定は、行財政改革委員会というオープンな審議会では選ばれますが、結局、その委員会に提案さ

れるのと、されないものの個別の説明はありません。一応の基準はあるのですが、結局は「削減可能性のあるもののうちから、恣意的に選んだ」と見えるわけです。

### ④ わずか一時間半程度の議論と直感的な評価

学校再編は2年以上かけて、地域住民と頻繁に対話を重ね、学校再編検討委員会も同様に議論をかさね、再編計画をまとめました。それに比べると、事業仕分けは1回のみで、わずか1時間半程度です。事前準備は入念に行っていると言いますが、明らかに審議不足です。

また、市民判定人の評価も、要は「拡充・見直し・廃止」などの選択肢の直感的なアンケートに過ぎません。

### ⑤ 内容をあまり見ずに、結論を偏重する。

ただ、一時間半程度とはいえ、密度の濃い議論はされていて、とても勉強になります。事業の経費は20万円でも、職員人件費が約300万円の事業もあり、行財政改革は「人件費」がキモだと、改めて実感させてくれた議論もありました。

なかには、「不要・凍結(15)」という判定が15人で、「国・県・広域(3)」「要改善(11)」「現行通り・拡充(5)」という事業継続が19人と過半数なのに廃止された事業もありました。4つの選択肢の最多を結果とするというルールだと、確かに廃止が最多になるわけですが、そのルール自体が変だと思います。なぜ、存続が過半数なのに廃止になるのでしょうか？この機械的なルール適用も事業仕分けの問題であり、やはり結果を機械的に見るよりも、内容をしっかり吟味すべきです。

なお、「拡充」という評価については、ほとんど実行しません。率直に言って、事業仕分けは最悪であり、もう二度とすべきではないと思います。

#### <お知らせ>

「市政報告&意見交換会」を行います。  
**2月15日(土) 館山地区公民館 2F会議室**  
(館山小学校の正門を入れて右側)  
**時間: 14:00~15:30頃**

入場無料・予約不要なので、どなたでも当日、お気軽にお越し下さい。入退室自由ですので、ご都合のつく時間だけでもいらして頂ければと思います。

石井 敏宏 略歴  
昭和47年2月 館山生まれ。  
館山二中、安房高、立教大学  
法学部卒業。平成23年4月に  
館山市議会議員に初当選。



<発行者> 石井としひろ 後援会  
〒294-0038 館山市上真倉320-2  
TEL&FAX: 0470-23-7738  
携帯: 090-1557-5515  
メール ishiitoshihiro1@gmail.com  
ブログ <http://ameblo.jp/ishiitoshihiro/>